



文書館  
もんじょかん  
動物記



書庫に棲む動物たち

20

怪

「浦日記」（毛利家文庫 71 藩臣日記 2（11））に載せる怪獣

うらにつき

## 「尾かづき」とよばれた怪獣

天保 12 年（1841）6 月。幕府が天保の改革に着手し、また太平洋を漂流していた土佐の中浜万次郎（ジョン万次郎）がアメリカの捕鯨船に救助されたところですが、その 16 日条の「浦日記」に、写真のような動物の絵があります。尾が三つに分かれ、猫のような狐のような狸のような……。岩国領の新庄（現柳井市）に現れ、人も 1,2 人害したと記されています。

「浦日記」は萩藩主毛利敬親の代に、当役・当職などの要職を歴任し、藩政の枢機に参画した浦鞆負（うらゆきえ）の公私両面にわたる日記です。文政 8 年（1825）正月に始まり、明治 3 年 6 月朔日の死去の前日まで、関係し見聞した事項を綿密に記録しています。浦氏は現在の柳井市阿月を領しており、この記事のように、柳井周辺のことからも数多く記されています。

裏面に、当日条の記事を載せますので、まずは古文書講座のつもりで答えを見ずに解説にチャレンジしてみてください。（答えは右にあります）はたしてこの「怪獣」はどうなったのでしょうか？

「浦日記」は字も小さく、決して読みやすくはないのですが、読めなかった一字が読めたときの快感は、一種の「脳トレーニング」であり、知的な喜びを伴っています。

山口県文書館では、毎年古文書講座として「入門講座」「専修講座」「実践講座」の 3 講座を開講しています（それぞれ年 10 回）。一種の教養講座として、また自らの生涯学習の一つとして受講される方も多く、人気の講座です。

毎年 2 月に募集をおこなっていますので、ふるってご応募ください。

候事  
申者之直話承候者、今日芥川重  
日柳井之役所へ差出候ヲ見候  
擬ニ而取囲、致退治候ニ而、昨  
ハ一日狩有之、高敷七拾  
ハ狩有之候如、金羅羅ト申  
モ幸而人害し候ニ而（二）、  
追々狩有之候如、金羅羅ト申  
追々狩有之候如、金羅羅ト申  
之方出、追々狩立られ新庄迄来  
候ト申事ニ而、亦話を以図置候事  
此内之風評ハ虚説ニ而、能（よ  
）承候得ハ三狸之病獸ニ而、  
（一）英角人喰而、毒氣奪り死候由  
ニ而、至ク猫之面ニ而ハ無之由ニ而  
候事

（景の面書）

十六日小雨 月食皆既

